調査研究から

相模湾定置網の漁海況
平成21年下半期の経過と平成22年上半期の見通し

平成21年12月25日に、神奈川県水産技術センター、同相模湾試験場、静岡県水産技術研究所伊豆分場が参加し、相模湾定置網漁海況の平成21年下半期の経過と平成22年上半期の見通しについて協議しました。以下にその概要を報告します。

1　平成21年下半期（7～11月）の経過

（1）　相模湾周辺の海況

黒潮は、7月下旬～8月中旬は八丈島東の冷水渦を迂回してＳ字状に北上する流路でしたが、8月下旬～9月中旬にはＣ型となり、9月下旬には伊豆諸島海域と八丈島東の２箇所で蛇行し房総半島で大きく離岸する流路となりました。10月下旬になるとＮ型となり、11月上旬には中旬以降はＢ型となり房総半島に接岸する流路となりましたが、12月上旬には再びＣ型となりました。沿岸水温は、7月中下旬はきわめて低めで、7月の平均水温19.3℃は昭和57年以降で最も低い値でした。8月には暖水波及があり平年よりやや高めとなり、9～10月は平年よりやや低めとなりましたが、10月末には再び暖水波及がありやや高めとなり、11月末にも暖水波及があり平年より高めとなりました。

（2）　定置網漁況の経過

相模湾における定置網漁場の地区名を第1図に示しました。また、平成21年7～11月までの神奈川県内各定置網漁場及び伊豆東岸地区の標本漁場の計36ヶ統における魚種別漁獲量を第1表に示しました。

第1図　定置網漁場の地区名

ア　総漁獲量

今期の総漁獲量は7,891ｔであり、前年（9,938t）を下回りました。西湘地区が2,440tと最も多く、次いで湘南地区が1,863ｔ、伊豆地区が1,851t、三浦地区が1,719t、金田湾地区が18ｔでした。今期は、ブリ、サバッコ、イサキ、ウルメイワシ、アカカマスは前年を上回り、サバ類、マルソウダ、カタクチイワシ、マアジ、マイワシは前年を下回りました。

イ　魚種別漁獲量

①サバ類

サバッコを除くサバ類は西湘、湘南、三浦、伊豆を中心に3,530tが漁獲され、前年の0.9倍と下回りました。

第１表　　平成21年下半期（7～11月）における地区別魚種別漁獲量（ｔ）

地区名	伊豆	西湘	湘南	三浦	金田湾	総計
標本漁場数	9	10	6	8	3	36
操業日数	835	1,072	558	714	66	3,245
1　サバ類	811	840	1,019	852	9	3,530
2　ブリ	214	227	111	205	1	759
3　サバッコ	170	445	111			725
4　イサキ	122	309	31	9	0	472
5　マルソウダ	95	50	73	93	0	311
6　ウルメイワシ	14	122	106	51	0	293
7　カタクチイワシ	26	7	156	94	2	284
8　マアジ	63	57	45	42	0	208
9　マイワシ	16	63	25	96	1	201
10　アカカマス	5	20	60	73	0	158
11　その他	316	301	126	203	4	951
総計	1,851	2,440	1,863	1,719	18	7,891

②ブリ

ブリのうちワラサ銘柄は伊豆、西湘地区を中心に 82ｔが漁獲され、前年を上回りました。イナダ銘柄は三浦、湘南地区を中心に 207ｔが漁獲され、前年を下回りました。ワカシ銘柄は西湘、伊豆、三浦、湘南の各地区で 470t が漁獲され、前年を上回りました。

③サバッコ

サバ類のサバッコ銘柄は伊豆、西湘地区中心に 725t が漁獲され、前年の 14 倍と大きく上回りました。

④イサキ

西湘地区を中心に 472ｔが漁獲され､前年の 2.1 倍と大きく上回りました。

⑤マルソウダ

伊豆、三浦、湘南地区を中心に 311ｔが漁獲されましたが、前年の 0.7 倍と下回りました。

⑥ウルメイワシ

西湘、湘南地区を中心に 293t が漁獲され、前年の 1.2 倍とやや上回りました。

⑦カタクチイワシ

湘南地区を中心に 284ｔが漁獲されましたが､前年の 0.5 倍と大きく下回りました。

⑧マアジ

伊豆、西湘、湘南、三浦地区で 208ｔ漁獲されましたが、前年の 0.2 倍ときわめて不振でした。

⑨マイワシ

三浦、西湘地区を中心に 201t が漁獲されましたが、前年の 0.2 倍ときわめ

て不振でした。

⑩アカカマス

三浦、湘南地区を中心に 158 t が漁獲され、前年の 1.4 倍と前年を上回りました。

（３） 伊豆地区の特異現象

○海況

・ 白浜定地水温は、7 月上旬は平年（昭和 33 年～平成 20 年の平均値）より低く、前年よりやや低めでしたが、中下旬は平年及び前年よりきわめて低めで推移しました。7 月中旬の平均水温 17.9℃と月間平均水温の 19.3℃は、観測を始めた 1957 年以降で最も低い値でした。8 月は平年よりやや高めとなりましたが、9～10 月は平年よりやや低めとなり、11 月には再びやや高めとなり、12 月上旬には平年より高めとなっています。

○漁況

・ 8 月にブリのうちワラサ銘柄が 21.4 トン、イナダ銘柄が 24.8 トン漁獲され、昭和 57 年以降で２番目に多く、9 月にはワカシ銘柄が 96.4 トンと昭和 57 年以降で最も多く漁獲されました。
・ 8月にスルメイカが16.9トンと昭和57年以降で２番目に多く漁獲された。
・ 8 月にシイラが 0.4 トンと昭和 57 年以降で２番目に少なく、黒潮離岸の影響と考えられました。
・ 10 月にイサキが尾叉長のモード 17 ㎝の小型魚中心に 78 トンと昭和 57 年以降で最も多く漁獲されました。
・ 9、10 月にはマアジ漁獲量がともに 6.9 トンで、平年の２割程度の漁獲が続き低迷しています。
・ 11 月に伊豆東岸大型定置 8 ヶ統で 583 トンと昭和 57 年以降で最も多く漁獲されました。
・ 11 月に尾叉長のモードは 33 ㎝のサバ類がゴマサバ主体で 436 トン漁獲され、昭和 57 年以降で最も多く漁獲されました。
・ 11 月に尾叉長のモードは 23 ㎝のサバッコがゴマサバ主体で 56 トン漁獲され、昭和 57 年以降で最も多く漁獲されました。
・ 11 月に被鱗体長のモード 12.5～13 ㎝のカタクチイワシが 21.6 トン漁獲され、昭和 57 年以降で最も多く漁獲されました。
・ 10～11 月に日本海から来遊したと考えられる大型のエチゼンクラゲの大量入網が続き、定置網の漁具、漁獲量、単価に大きな打撃を与えました。

２　平成 22 年上半期（1～６月）の見通し

（１） 海　況

黒潮流路はＮ型基調で１～２月は一時的にＢ型のちにＣ、Ｄ型、４～５月に一時的にＢ、Ｃ型流路になるでしょう。相模湾沿岸の水温は、全般に「平年並み」～「低め」で推移する。暖水波及時には「高め」となるでしょう。

（２） 漁　況

ブリ

平成21年７～11月における銘柄わらさの漁獲量は前年及び平年を上回り、期を通じて平成19年級群が中心でした。平成22年は平成19年級群がぶり銘柄となって漁獲されますが、当歳時と３～４歳時の漁獲量の相関関係から、平成22年上半期の伊豆東岸の３歳魚（銘柄ぶり）の漁獲量は前年（伊豆・西湘地区計43.6トン）を上回る60トン程度と予測されます。一方、２歳魚（銘柄わらさ)は平成20年級群の０歳及び１歳時の漁獲傾向が前年とほぼ同様なため、前年並み（伊豆・西湘地区計126.1トン）と予測されます。

マアジ

１歳魚を中心に漁獲され、０歳魚も期半ばから後半に漁獲されます。漁獲傾向から資源水準は低いと考えられ、伊豆地区の漁獲量は前年(478 トン)を下回る400トンと予測され、さらに大きく下回る可能性もあります。西湘地区も前年並みの600トンまたはそれを下回ると予測され、湘南＋三浦地区は200トン程度で相模湾全体で1,200トン程度若しくはそれを下回ると見込まれます。

サバ類

ゴマサバは１歳（平成21年級群）を中心に漁獲され３歳魚も混じり、マサバは漁期後半に３歳魚が来遊する可能性があります。上半期伊豆地区の漁獲量は前年(530トン)並みの500トンと予測され、相模湾全体でもほぼ前年並みの750トン程度と見込まれます。ただし、２月及び４～５月にＮ型からＢ～Ｃ型に移行し、暖水波及があると予想され、その際に伊豆諸島海域からの来遊が見込まれるため、さらに漁獲量が増加する可能性があります。

マイワシ

相模湾全般に漁獲の主体は１歳魚（平成21年級群）で、前年を下回ると見込まれます。

カタクチイワシ

漁獲の主体は２歳魚（平成20年級群）で、北部まき網資源量指数との相関から前年（500トン）を上回ると見込まれます。

（御宿昭彦）